



CSR推進における経済側面への取り組み

中期経営計画「VISION75」の基本戦略のひとつ「連結経営の強化」には、経営の根幹を強化する課題として「コンプライアンス&リスクマネジメントの強化」「環境経営の更なる強化」とともに「連結経営管理の強化」があります。経営環境が激変する中、富士フィルムグループ全体としての最適な経営を実現していくため、グループ経営を強化していきます。

連結経営の推進に向けて

デジタル化の急激な進展に伴い、富士フィルムグループを取り巻く環境が短期間のうちに激変し、富士フィルムは大きな転換点にさしかかっています。このような大きな環境変化のなかで、生産、販売などの抜本的な改革はもちろんのこと、経営管理の仕組みも思い切って変革に取り組まなければなりません。その中核になる考え方が、事業軸を

中心にグループ会社を含めた連結経営を強化していくことであり、これを進める上で、連結のグループの共通評価尺度としての、EVA® (Economic Value Added=経済付加価値)の導入、連結経営管理をサポートするITインフラの整備など、従来の考え方にとらわれない施策によって、グループ全体での最適経営を実現させたいと考えています。

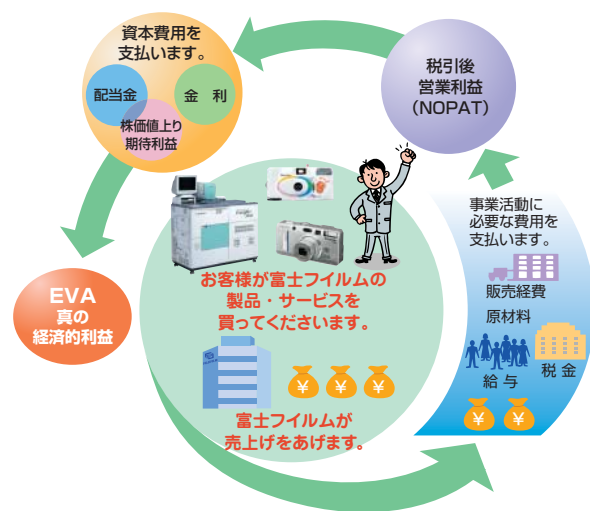
EVA®の導入

グループ経営の最も重要な価値尺度としてEVA®の導入を決定し、2003年9月、推進チームを発足させ、資産資本効率を重視し資本コストの考え方を内包するEVA®の導入をスタートしました。EVA®を手段として使うことで選択と集中を進め、富士フィルムの将来の事業ポートフォリオを再構築していくとともに、各事業、各グループ会社がEVA®を共通語として、その最大化に相互に協力していきます。

■ステークホルダーとEVA®

富士フィルムの企業活動は、富士フィルムの製品・サービスに対価を支払ってくださるお客様、販売店、取引先、流通業者、社員、そして事業資金を提供する銀行、株主など、さまざまなステークホルダーの皆さまによって成り立っています。富士フィルムは事業活動で得たお金をもとに、これらのステークホルダーに代金や販売マージン、給与、金利などを支払いますが、株主は、富士フィルムが代金や給与、税金などを支払った後、最後に利益の配分を受けるステークホルダーになります。富士フィルムグループ全体として、株主を満足させる利益を最大化していくことが即ち、全てのステークホルダーに十分な価値を提供することに他ならないと位置付けています。

■企業活動とお金の流れ



■EVA®の導入ステップ

富士フィルムグループの「EVA®導入」は、2003年9月に準備(①教育・広報活動)をスタートしました。続いて②予算でのEVA®トライアル、③実績の算出、予算と実績の対比、④トップダウンでEVA®目標の設定、の順で導入を進めていきます。

■EVA®の導入ステップ

	2003年度 下期	2004年度 上期	2004年度 下期	2005年度	2006年度
①教育・広報活動	→				
②予算でのEVA®算出トライアル		→			
③実績の算出、予算と実績の対比		→	→	→	
④トップダウンでEVA®目標を設定				→	→

● EVA®はスターン・スチュワートの登録商標です。

EVA®での管理は四半期ごとのサイクルで進めていきます。



富士フィルムグループでは、企業の環境保全に関する投資や経費、その効果などを集計し開示する環境会計に、人事、労働安全、社会貢献などの社会活動全般を加えたものをサステナビリティ会計と定義し公表しています。富士フィルムグループの2003年度環境会計および労働環境・社会会計の結果は以下のとおりです。

2003年度サステナビリティ会計の集計結果について

環境会計

2003年度実績は、設備投資145億円（前年比13億円増）・環境保全費用630億円（前年比42億円増）・社内経済効果456億円（前年比31億円増）・社会への効果126億円（前年比4億円増）・お客様への効果303億円（前年比103億円増）でした。

環境保全費用の増大は、主として省エネルギー施策の強化によるものです。

また、原材料削減・省資源化による経済効果は減少していますが、これは、従来の主力製品から、新規分野の製品へ切り換わる過程にあるためです。

研究開発から得られるお客様への効果金額は、液晶ディスプレイ用フィルムの販売増や高密度記録材料等の開発によってお客様のコストダウンに大きく寄与し、大幅に増額しています。

労働環境・社会会計

富士フィルムグループ内で、社員の労働環境改善や社会貢献にかけた費用を、労働環境・社会会計として集計しました。2003年度の実績は44億円でした。

富士フィルムグループサステナビリティ会計対象会社

富士写真フィルム(株)、富士ゼロックス(株)、富士写真光機(株)、フジカラーイメージングサービス(株)、富士フィルムオプトマテリアルズ(株)、富士機器工業(株)、富士フィルムアジア(株)、富士フィルムバッテリー(株)、富士フィルムビジネスサプライ(株)、(株)富士フィルム人材開発センター、富士フィルムソフトウェア(株)、富士フィルムロジスティクス(株)、富士フィルムテクノサービス(株)、富士フィルムメディカル(株)、千代田メディカル(株)、(株)エフエフエムエー、富士フィルムフォトニクス(株)、富士フィルムマイクロデバイス(株)、富士フィルムティービーエックス(株)、富士テクニクス(株)、富士フィルムアーチ(株)の計21社です。

労働環境・社会会計

労働環境・社会会計の目的

社員の労働環境の整備および社会貢献に費やした費用金額を集計し、富士フィルムグループとしてこれらの分野での取り組み状況を、経済面で把握するため

集計期間

2003年度(2003年4月1日から2004年3月31日)

集計方法

各集計項目に対し、以下のように集計しました。労働安全・福祉：これらの目的に費やした費用を、事業場ごとに集計しました。一般教育：教育訓練費使用実績、および、それに関与した社員の教育関連労働時間に相当する人件費を集計しました。社員雇用：労働問題への対応に費やした経費および定年後再雇用者に支払った賃金額を集計しました。消費者対応：富士フィルムグループを代表して消費者対応にあたる職場の全経費を集計しました。

労働環境・社会会計

(金額単位:百万円)

Table with 5 columns: Item, Main Content, 2002, 2003. Rows include Labor Safety & Health, General Education, Employee Employment, Neighborhood Coordination, Consumer Response, and Cultural Arts Promotion.

集計にあたっての考え方

環境会計

環境会計の目的

- ①経営者層および事業場統括者の意思決定に役立つ、数値化された環境情報を提供すること
②社内外の関係者に、物量面・経済面の定量化された正しい環境情報を提供すること

環境会計の基本方針

環境省発行の「環境会計ガイドライン(2002年版)」を参考としています。集計期間 2003年度(2003年4月1日から2004年3月31日) 集計方法 ①減価償却費は、原則として3年間の定額償却によって算出しています。②環境保全以外の目的が含まれているコストは、支出目的による按分計算により集計しています。

効果の計上は、以下のように行いました。

- イ 社内効果(経済効果) リユース・リサイクル・製造合理化による資源使用量削減等の効果を計上しました。
ロ 社外への効果
I) 社会への効果 環境保全活動によって達成された環境負荷削減に対応した社会での金額換算効果を計上しました。
II) お客様への効果 新規開発製品の使用によりお客様が得られた経済効果を計上しました。

富士フィルムグループ連結環境会計

(金額単位:百万円)

Main table showing environmental costs and effects. Columns include Main Content, Equipment Investment, Expenses, In-house Effects, and External Effects. Rows include Business Area Costs, Pollution Prevention, Earth Environment Protection, Resource Circulation, etc.

※ アルミ廃棄物52.1千トン、高分子廃棄物15.9千トン、その他廃棄物55.4千トン
環境負荷削減量の金額換算根拠は次の通りです。
①SOx削減：345千円/トン ②VOC削減：525千円/トン、
(社)産業環境管理協会「平成11年環境ビジネス発展促進等調査研究(環境会計)報告書」
③CO2削減：1,611円/トン(環境省：平成15年度温室効果ガス排出量取引(試行)事業結果)
④廃棄物埋め立て処理コスト：100円/kg (金額単位:百万円)

お客様への効果

Table showing benefits to customers. Columns include Main Content, 2002, 2003. Rows include High-density recording material development, Dry-etch film development, etc.